

所属・氏名（健康科学部 心理学科 氏名： 鈴木 佳奈）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 子育て中の夫婦は自分たちの 対話様態をどう相互評価する か—夫婦ペアデータの探索的 分析の試み— 《筆頭論文》	共著	2025年	『HIU 健康科学ジャーナル』第 4 号, pp.29-39	子育て中の若い夫婦が自分たちの対話様態をどのように相互評価しているかを検討した。夫婦間ペアデータは、マルチレベルモデルによる分析が推奨される。中国地方に住む 65 組の夫婦を対象に、夫婦間の会話時間や夫に対する妻の働きかけ行動などについて夫婦それぞれから回答を得た。各変数の級内相関係数は夫婦間で一定の類似性があることを示しており、夫婦の回答に集団内類似性が認められた。さらに探索的にマルチレベル構造方程式モデリングおよび Actor-Partner Independence Model を適用したところ、夫の家事育児参加、子どもについての会話頻度、夫婦間の会話時間の諸変数と妻の促進行動との間に弱いながらも関連が示された。 (当該論文のページ数:15頁) (共著者:鈴木佳奈, 西村太志) 担当部分:データ採取・分析と論文の執筆全般を担当。
2 (学術論文) 夫婦が親チームとなっていく プロセス:幼児期の子どもを持つ 夫婦を対象とした質的研究	共著	2022年	『発達心理学研究』 第 33 巻第 1 号, pp.25-39	夫婦がチームとして育児家事を分担していく相互影響過程を明らかにすることを目的に、幼児期の子どもを持つ夫婦21組を対象に半構造化面接を行った。修正版グラウンデッドセオリー法を用いて、子の誕生後に夫婦が親チームとなっていく過程を示した。夫婦関係内の肯定的側面と否定的側面を行き来しつつ、肯定的側面が否定的側面を上回る時、親チームとなっていくことが示唆された。 (当該論文のページ数:15頁) (共著者:大島聖美, 鈴木佳奈, 西村太志) 担当部分:面接データの収録と分析を担当。
3 (報告・発表) 父親と子どもの協働的相互行為—絵本のページめくりを例に—	単著	2021年10月	2021 年度第 3 回文化比較・行動比較分科会および乳幼児発達研究会(オンライン)	父親による絵本の読み聞かせ場面での「ページをめくる」という行為について、父親と子どもの協働の様子を検討した。21 組の父子の動画から採取されたページめくりの多くは父親による自発的な行動で、子どもは手を出さずに待つことで父親に「協力」する。逆に、子どもがページめくりの主導権を握るケースも見られた。少数ではあるが、片方のページめくりに相手が抵抗を示すケースもあり、そのような逸脱的事例で、ページめくりをめぐる交渉がどうなるのかも併せて検討した。
4 (報告・発表) jamovi の基本操作とペアデータの分析	単著	2020年9月	日本心理学会第 84 回大会チュートリアル・ワークショップ「jamovi で学ぶ新しい心理統計学」(小野寺孝義, 大藤弘典, 鈴木佳奈)(オンライン)	心理統計学や心理実習, 心理調査法, 卒業研究などの指導で利用できる無料の統計ソフト jamovi を用いたデータの基本処理と, ペアデータの分析方法を解説した。

令和 7 年 4 月 1 日 現在